

! ご使用の前にこの説明書を最後まで読み正しくお使いください。

オプションのアタッチメントを装着することで汎用的に使えるベースの支柱セットです。

支柱は軽量で錆びにくいアルミ製で、直径は 45 ミリです。支柱の耐荷重は 100kg までです。(脚を X 字型に組んだ場合)

用途に応じて、脚は K 字型か X 字型の 2 パターンに組むことができます。

K 字型の場合は壁に寄せて設置することができますし、X 字型の場合は支柱の前後両面が使えます。

注意していただきたいこと

- 荷重制限を守ってお使いください。またできるだけ偏荷重にならないように配慮ください。
- K 字型で脚を組んだ場合は、支柱背面に荷重がかかるような使い方をすると後方に転倒してしまう恐れがあります。必ず前面だけに品物を寄せてください。
- 4 本の脚の先端にはそれぞれアジャスタが装着されています。4ヶ所の接地点が同時に床に接し、なおかつ支柱が直立するように、各アジャスタの突き出し長さを正しく調節してください。
- 上下支柱は連結される構造です。中に入る芯材は上下支柱に等分に挿入されるようにしてください。また上下支柱はぴったりと密着し、連結部のクランプを締めるボルトが緩んでいないことを定期的にチェックし、もし緩んでいたら適切に増し締めしてください。

お問い合わせ先

<販売元>

株式会社 フカヤ

〒460-0015 愛知県名古屋市中区大井町 1-37 - 3F

Phone (052) 228-8910

Fax (052) 228-8917

Web www.fukaya-sangyo.co.jp

<製造元>

株式会社 箕浦

〒503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1

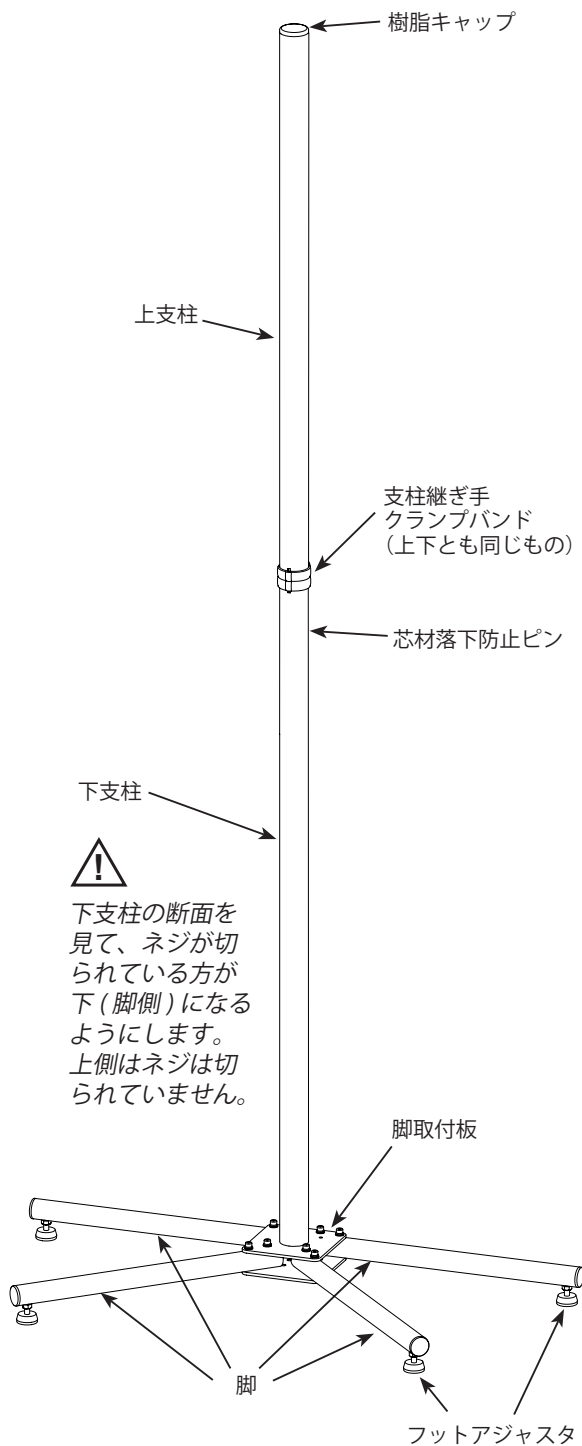
Phone (0584) 27-3131 (営業) / 27-3133 (カスタマー)

Fax (0584) 27-7505 (営業) / 27-4258 (カスタマー)

Email infodesk@minoura.jp (カスタマーサービス)

Web www.minoura.jp

日本製



下支柱の断面を見て、ネジが切られている方が下(脚側)になるようにします。上側はネジは切られていません。

(脚を K 字型にした状態での使用例)

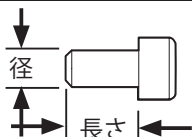
組み立てに必要な工具

5 ミリ六角レンチ (添付)	1 本
13 ミリスパナ (添付なし)	1 本

(添付されていない工具はご自身で用意してください)

ボルトサイズの読み方

(単位：ミリ)

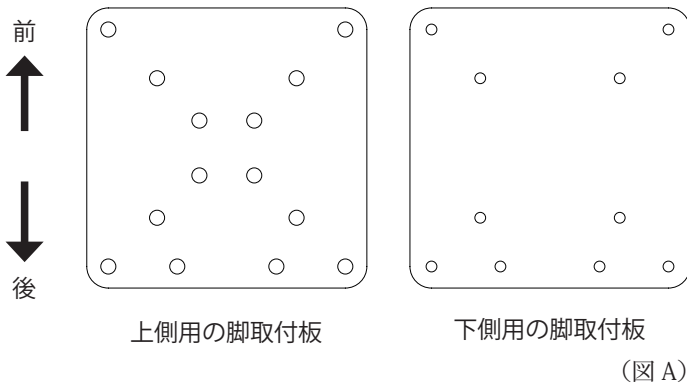


例) M 6 x 30
径 長さ

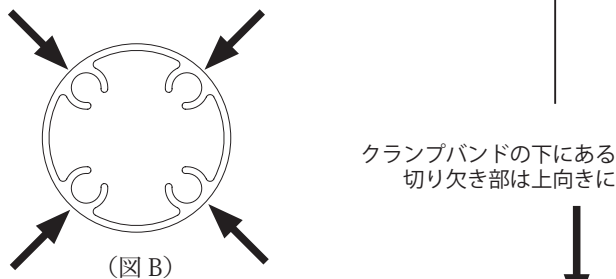
MPT-200S-2 をK脚で組み立てる

脚をK字型で組み立てると、壁などに寄せて省スペースに設置することができるようになる反面、バランス不良による後方への転倒を避けなければなりません。
自転車の場合は前面だけにしか搭載できず、搭載台数も2台までに制限されます。

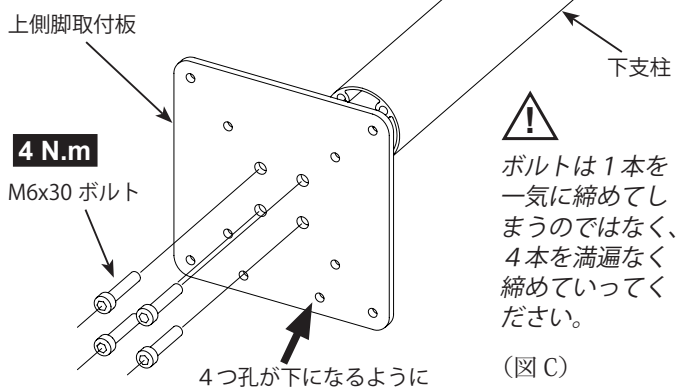
- 1** まずはじめに脚取付板を確認します。
2つは同じものではなく異なります。上側になるものはボルトが素通しできるような大きめの孔があけてあり、中央に下支柱に取り付けるための4つの孔が設けられています。下側になるものはボルトをねじ込むためのネジが切られた小さい孔があいており、中央部の4つの孔はありません。また孔のパターンはそれぞれ上下対称ではありません。外縁部に横並びに4つあいている側が背面側になります。



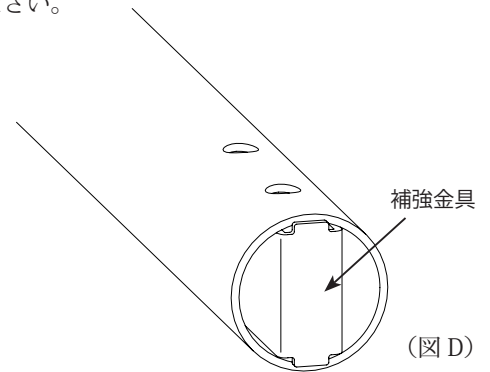
- 2** 次に下支柱の上下方向を確認します。
下支柱の断面を見て、4つあるC字型の溝部分にボルトをねじ込むためのネジが切られている方が下側（脚が取り付けられる側）になります。ネジが切られていない方は上支柱と接続される側になります（図 B）。
(上支柱には樹脂キャップが装着されています)



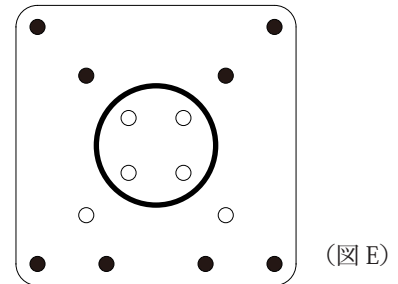
- 3** 支柱は、クランプバンドの下にある切り欠き部が正面に来るように使います。
切り欠き部を上に向けて置いた下支柱に、上側脚取付板を図 C のようにセットし、中央の4ヶ所の孔に M6x30 ボルトをねじ込み、添付の 5 ミリ六角レンチを使って **4N.m** で締め付けて固定します。



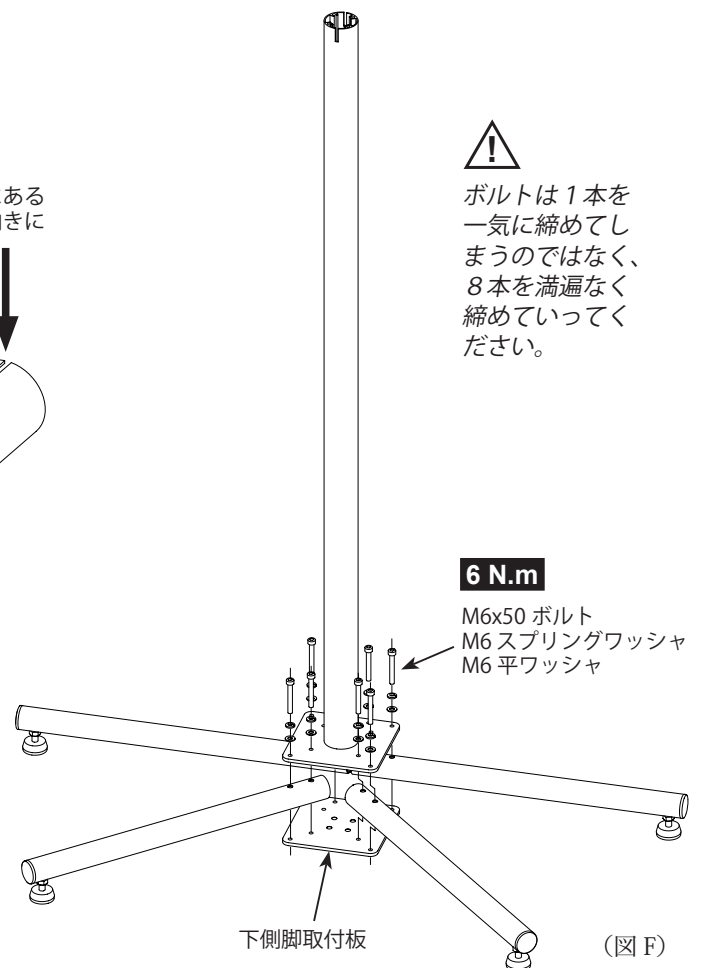
- 4** 続いて脚を取り付けていきます。
脚は4本とも同じサイズです。フットアジャスタの反対側の端には、ボルトをねじ込んだ際にパイプがつぶれてしまわないように補強金具が入っています。
この金具がちゃんとすべての脚に奥まで挿入されていることを確認してください。金具がない状態の脚は使わないでください。



- 5** 4本の脚をK字型に並べ、それを上下の脚取付板で挟んだ状態を、8本の M6x50 ボルトを脚を貫通させて止めます（図 E の黒丸印部分を使います）。ボルトは上側から通し、下側脚取付板のネジ孔に **6N.m** でねじ込んで固定します。



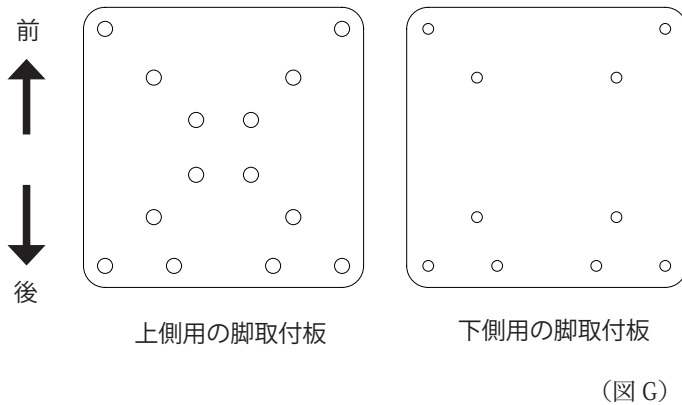
!
ボルトは1本を一気に締めてしまうのではなく、8本を満遍なく締めていってください。



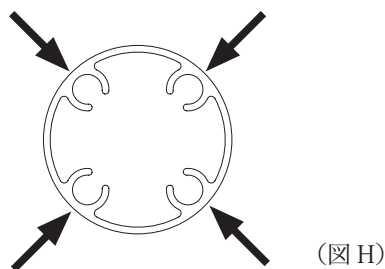
MPT-200S-2 をX脚で組み立てる

脚をX字型で組み立てると脚の踏ん張りが効くようになるため、支柱前面の他に背面にもアタッチメントを取り付けて収容量を増やすことができますようになります（自転車だと最大4台まで。ただし合計荷重は最大100kgまで）。またK脚のように方向性が決められてしまうことがなくなるので自由に配置できます。その反面、設置面積はK脚よりも大きくなります。

- 1** まずはじめに脚取付板を確認します。2つは同じものではなく形は異なります。上側になるものはボルトが素通しできるよう大きめの孔があけてあり、中央に下支柱に取り付けるための4つの孔が設けられています。下側になるものはボルトをねじ込むためのネジが切られた小さい孔があいており、中央部の4つの孔はありません。また孔のパターンはそれぞれ上下対称ではありません。外縁部に横並びに4つあいている側が背面になります。（図G）



- 2** 次に下支柱の上下方向を確認します。下支柱の断面を見て、4つあるC字型の溝部分にボルトをねじ込むためのネジが切られている方が下側（脚が取り付けられる側）になります。ネジが切られていない方は上支柱と接続される側になります。（図H）（上支柱には上端に樹脂キャップが装着されています）

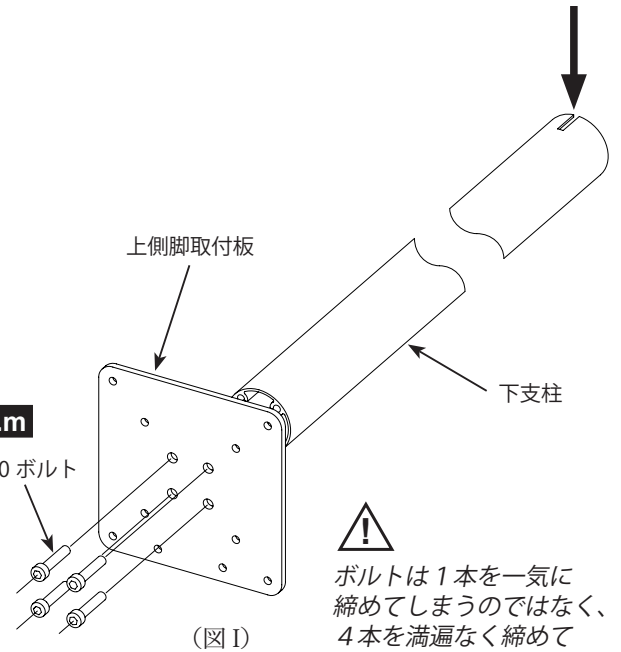


- 3** K字型で脚を組む場合は下支柱じたいの方向性が決められています。X字型では決まっていません。どちらを向いても構いません。

下支柱に、上側脚取付板を図Iのようにセットし、中央の4ヶ所の孔にM6x30ボルトをねじ込み、添付の5ミリ六角レンチを使って4N.mで締め付けて固定します。

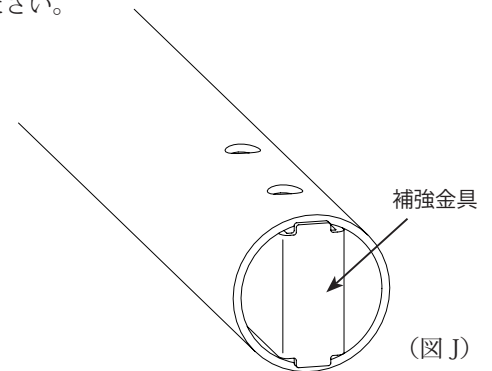
4 N.m

M6x30 ボルト

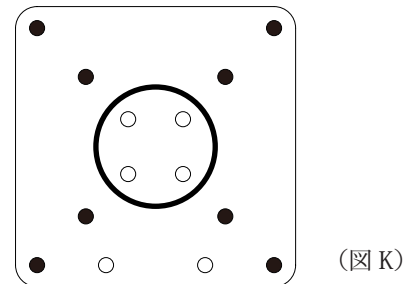


ボルトは1本を一気に締めしてしまうのではなく、4本を満遍なく締めていってください。

- 4** 続いて脚を取り付けていきます。脚は4本とも同じサイズです。フットアジャスタの反対側の端には、ボルトをねじ込んだ際にパイプがつぶれてしまわないように補強金具が入っています。この金具がちゃんとすべての脚に奥まで挿入されていることを確認してください。金具がない状態の脚は使わないでください。



- 5** 4本の脚をX字型に並べ、それを上下の脚取付板で挟んだ状態を、8本のM6x50ボルトを脚を貫通させて止めます（図Kの黒丸印部分を使います）。ボルトは上側から通し、下側脚取付板のネジ孔に6N.mでねじ込んで固定します。



クランプバンドの下にある切り欠き部はX字型の場合はどこを向いてもよい

上下支柱をつなぐ

MPT-200S-2 では支柱は上下 2 本に分かれています。支柱は上下とも同じ太さで、芯材を間に挟んでつなぐ方式で組み立てます。上支柱にはあらかじめ芯材が取り付けられています。それを下支柱に挿入してクランプバンドを締め付けて固定するという方式です。

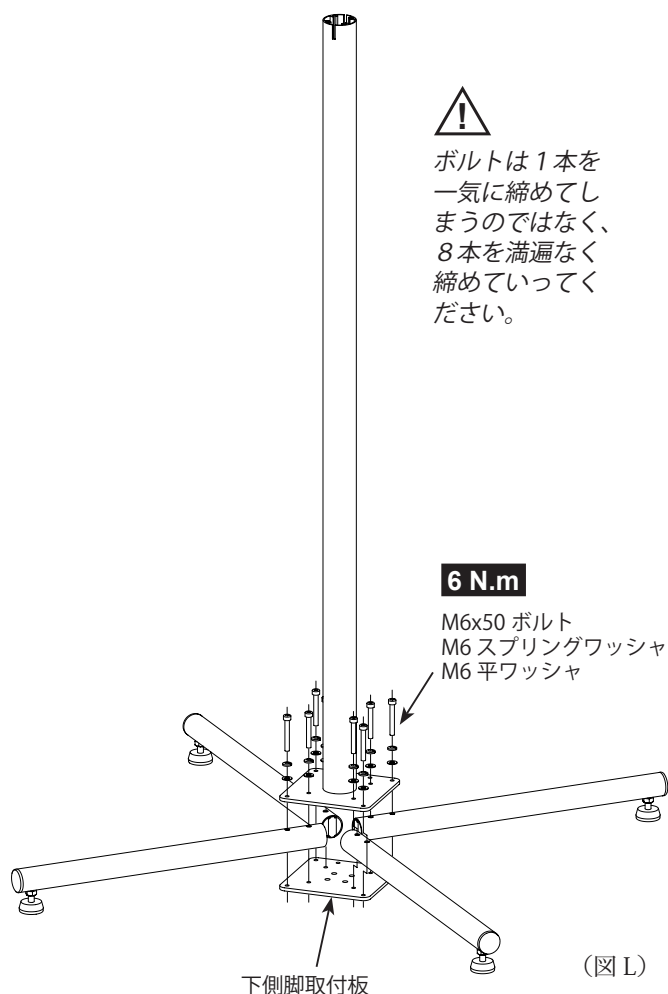
- 1 まず下支柱側のクランプバンドを 5 ミリ六角レンチで緩めておきます。
- 2 上支柱にあらかじめ取り付けられている芯材部分を下支柱に挿入します。
- 3 上支柱を下支柱にしっかりと密着させたまま、クランプバンドを **8 N.m** で締め付けて固定します。上側のボルトも同じく **8 N.m** で締めめます。



クランプバンドのボルトは定期的に締め付け具合をチェックし、緩んでいたら増し締めしてください。ここが緩むと支柱が崩落してしまうおそれがある重要なポイントです。



強すぎる力でボルトを締めるとクランプバンドが伸びてしまいます。もしバンドの端と端とが接触してしまう状態になっていたらそれ以上は締めませんので、バンドを交換する必要があります。



フットアジャスタについて

フットアジャスタは、4 点が同時に床に接地し、がたつきなく支柱が垂直に立つようにその長さを調整します。

アジャスタはねじになっているので、ゴム部分を回して長さを調整します。

長さが決まったら、ロックナットを脚パイプ側に当たるまで回し、13 ミリスパナで締め込んで固定します。

製品保証期間

本商品の保証期間は、お買い上げ日から起算して **1 年間**です。製造者側に責任のある不具合についてはその費用は弊社が負担し、無償修理もしくは商品交換を行ないます（修理か交換かの判断は弊社が行ないます）。

ただし不具合の発生原因が製造者側にない場合、たとえば誤った使い方した場合やボルトを斜めにねじ込んでしまった場合、製造者に許諾を受けていない改造や分解を行なった場合、天災や騒乱、工場出荷後の輸送中に起因する破損など、さらに本商品の最初の購入者でなかった場合につきましては、この保証は適用されません。

詳細につきましては、添付の「製品保証規定について」カードをご参照ください。

また最新情報につきましては、当社ウェブサイトをご参照ください。（www.minoura.jp）

